

グローバル・スタディーズ特別研究 : 学校教育と不平等

第8回：総括 学校教育と社会

“公平”なスタートライン？ (Kariya 2010, 菊谷2012)

平等主義的な日本の義務教育

- ✓ 平等・公平な教育機会の提供
 - 学校を通じた業績主義的選抜の公平性の可視化
- ✓ 実質的には**家庭・地域のSESによる不平等**
 - ✓ 実証研究による指摘
 - ✓ 日本が「平等」「公平」な社会的選抜（学歴競争）を行っていた**時期があるわけではない**：程度の差はある
 - “義務教育は平等”意識→**機会の不平等の不可視化**
 - “公平”なスタートラインは「大衆教育社会」の**幻想**

平等と自由 / 公平と優秀さ / 平等化と差異化

公平と効率：日本のケース

「ゆとり」教育

- ✓ “子ども中心主義”
 - 学習内容と時数の**削減**
 - 教員中心の教え込み授業を変更
 - 「個性」と「創造性」を持った子に育つ？
- ✓ 学級サイズの縮小や教員（再）研修のための**財政支援はない**
- ✓ 有名大学の**受験方法に変更なし**

教育の私事化の加速

- ✓ 上流中産階級の親による「ゆとり」教育への疑念
 - “できる子の離脱（Bright flight）”：（SESの高い）成績の良い子は私立へ
- ✓ 習熟度別学習/学校選択が公教育に導入される

“公平”なスタートライン？ (Kariya 2010, 菊谷2012)

日本の義務教育は**平等主義的**

✓ **プログレッシブな再分配**

✓ 国による標準化政策

- ✓ 学習指導要領
- ✓ 教科書検定
- ✓ 教員養成・免許制度
- ✓ 学校設置・運営基準

よって、社会的選抜（学歴競争）のスタートラインは**平等・公平**という社会イメージができあがる

平等と自由 / 公平と優秀さ / 平等化と差異化

公平と効率：日本のケース

Kariya (2011, 2012)

平等主義的な中学校教育

- ✓ 近年まで習熟度別学習もカリキュラムの違いもなし
- ✓ 財政基盤の弱い自治体には国の援助：国庫負担は2分の1から3分の1へ
- ✓ 教員の学校間人事異動で学校間の教育力差異を平等化
- ✓ 包含的：留年なし

普通化した高校教育

- ✓ 同年齢の97.9%が高校に進学し、中退率は全体の2-3%
- ✓ 90-95%が卒業
- ✓ 包含的：「修得」ではなく「履修」主義
- ✓ 出席さえしていれば（実質的に）高卒資格
- ✓ ヨーロッパ各国と比べると、カリキュラム・トラックが少ない
 - 職業科は2割台
 - 残りの「高校生」は大学進学候補者

拡大する高等教育

- ✓ 私立の低いランクの大学が増加

公平と効率：日本のケース

Kariya (2011)

高SES家庭（→私立進学中学）→私立進学高校→有名大学

- ✓ 近年、（公立ではなく）私立進学校出身者が有名大学へ進学する傾向にある

不平等の悪化

- ✓ （「ゆとり」を忌避する高SES親によって）私立教育が有名大学への主要なルートになった
- ✓ 経済資本があれば、（教・定員が増えた）低ランク私立大学に通うことができる = 経済資本があれば「大卒」にはなれる

公平と効率：日本のケース

Kariya (2011)

“効率”

- ✓ 有名大学の“質”は変わらない
- ✓ 私立進学高校から有名大学へのルート
- ✓ 出身階層による不平等は悪化

“公平”

- ✓ 高等教育は拡大したが、私立の低ランク大学の拡充によるもの

→教育の不平等は悪化

Wasting one's talent and potential?

持続する出身階層の影響

小塩 (2012)

数学の学力を説明する要因の相対的重要性

- TIMSS2007: 8th graders
- ✓ 家族 & 学校タイプ (公私立): 74.1%
- SES関連要因は学校要因よりも相対的に説明力が高い

子ども時代の貧困

- ✓ 直接・間接的に
- ✓ 現在の貧困
- ✓ 幸福感
- ✓ 健康感

教育の「選別」機能

教育制度の中で、生徒は異なる教育的・職業的に進路に選別される：異なるライフ・チャンス

- ✓ 早期才能教育
- ✓ 能力別グループ・クラス
- ✓ トラッキング (偏差値別高等学校)
- ✓ 私立学校 (幼稚園や小学校からの一貫教育)
- ✓ 公立学校間格差

生徒は (結果的に) 主に以下の要素で選別される

- ✓ メリット (テストの点数などで表される学力)
- ✓ 出身家庭の社会的地位
- ✓ 性別

➢ 日本で強調される「公平」は手続きの公平さ (試験における不正行為の撲滅など)

➢ より「ヘアレントクラーシ」に? : 「(親の) 富 + 願望」が入り込む隙間の拡大

相反する

価値観：平等と自由

目標：公平(equity)と優秀さ(excellence)

教育機能：平等化と差異化

不平等の世代間再生産メカニズム

生徒・近隣の社会的地位(SES)

↓
保護者・子の行動・選択・意識の差異/子の学力, アスピレーション, ハビトゥス, 努力

↓
学校の中で：教育手法の違い, 隠れたカリキュラム, ラベリング, 教員期待, トラッキング/習熟度別学習, 学校SES

↓
保護者・子の行動・選択・意識の差異/子の学力, アスピレーション, ハビトゥス, 努力

↓
「正当化された」教育成果：制度化された文化資本

- ✓ 「平等化装置」である学校制度を通して不平等は存在
➢ 複数回「選抜」を経て、出身家庭SESと結果の繋がりが見えづらくなる

本講義で扱った概念・知見

「教育不平等」

- ✓ 個人要因による教育不平等の理解

- 経済資本, 文化資本, 社会関係資本, ハビトゥス, 資本転換, 子育て法, 言語コード, 対抗文化, 学習能力

「学校教育と不平等」

- ✓ 学校要因による教育不平等の理解

- 学校間の差異, 対応理論, 隠れたカリキュラム, ラベリング理論, 教員期待, トラッキング・習熟度別学習, ジェンダー, アスピレーション

生徒 (個人) 要因と学校要因はオーバーラップしていて分離して理解されにくい

3分筆記・少人数&全体議論

「概念・知見リスト」を用いて

1. 自らの教育歴 (軌跡) を解釈するのに、最も説明力のある (もっともらしい) 3つ以上の概念を選べ
- ✓ 選んだ概念を用いて、どのように自身の教育歴について解釈できるか論ぜよ

3分筆記・少人数&全体議論

「概念・知見リスト」を用いて

2. すべての子どもに成功への“公平”な機会を与える教育制度・政策について、「概念・知見」に言及しながら論ぜよ（“公平”の定義は自分で）
 3. 教育に関連する社会問題を一つ以上選び、その社会問題の概要を簡述した上で、3つ以上の「概念・知見」に言及しながら対策を論ぜよ
- ✓ 「対策」は教育制度・政策以外も含む（税制度や公衆衛生政策など）

社会問題は、たとえば...

- ・ 収入格差・学歴格差・社会階層による格差・社会階層（世代間）再生産・子どもの貧困・失業・学力格差・希望（アスピレーション）格差・高校中退・大学中退・低い学ぶ意欲・ニート・低い政治参加・健康格差・分断社会

最終授業レポート

✓月曜日の23時59分

✓1100文字以上

✓質問文は引用せず・番号を明示する

✓すべてのお題について書く（文字数は等分である必要はない）

「概念・知見リスト」を用いて

1. 自らの教育歴（軌跡）を解釈するのに、最も説明力のある（もっともらしい）3つ以上の概念を選べ
2. すべての子どもに成功への“公平”な機会を与える教育制度・政策について、「概念・知見」に言及しながら論ぜよ。（“公平”の定義は自分で）
3. 教育に関連する社会問題を一つ以上選び、その社会問題の概要を簡述した上で、3つ以上の「概念・知見」に言及しながら対策を論ぜよ。「対策」は教育制度・政策以外も含む（税制度や公衆衛生政策など）

読書課題 → 小テスト

なし



Advanced Studies in Global Perspective : Social
Inequality in Schools